

地域と大学

第28号

Newsletter No.28, Division of Regional Collaboration and Lifelong Learning

社会連携を前に進める公募型「地域課題解決支援プロジェクト」

イノベーション社会連携推進機構特任教授 土居 英二

教育・研究に新しい息吹を吹き込む社会連携の役割

静岡大学は、教育、研究、社会貢献を大学の使命として掲げている。これら3つの使命は深く関係していて、教育と研究が密接な関係をもっていることは言うまでもない。

では、社会連携は、教育、研究とどのような関係を持っているのだろうか。

社会連携は、教職員と学生が、社会が直面する諸問題へ取り組む人々と協働することで、新しい研究テーマや研究分野の開拓、効果的な教育方法の創造を可能にする役割をもっている。社会連携は、大学から地域社会への一方向の貢献に留まらず、逆に研究や教育に新しい息吹を吹きこむ可能性を秘めているからこそ、大学が、組織をあげて取り組むべき「使命」（静岡大学のビジョンと使命）とされ、位置づけられているのだと思う。

地域課題解決支援プロジェクト

社会連携の意義と役割をさらに一段階前に進めようと、イノベーション社会連携推進機構の地域連携生涯学習部門が提起したのが、昨年12月に公募した「地域課題解決支援プロジェクト」である。静岡県全域の市町の市民団体、行政、企業から28件の応募があり、応募して頂いた全団体に対して、部門スタッフが手分けをしてヒアリングを行っている途上である。「地域社会が抱える課題を公募し、大学が解決に取り組んでいる人々を支援する」という取り組みは、本学ではもちろん、全国でもおそらく初めての取り組みだろう。

応募して頂いた地域課題は、学内約800名の教員に投げかけ、総合大学の利を活かして解決に向けて部門スタッフが協働の輪をつなぐ。このプロジェクトを提

起した阿部耕也部門長によれば、地域社会と大学との間に横たわる「敷居の高さ」を少しでも解消したいという思いもあるとのこと。学生の参加を得ることができれば、地域も活気が出るとともに、学生にも強い印象、学ぶ動機を与えて、教育面でも効果を期待できる。

地域社会は、大学の大きな教室

応募して頂いた課題には、人口減少、過疎の進行、高齢化など、疲弊しつつある地域社会が直面する課題の重さを改めて思い知らされるテーマが多い。静岡県特有の現れ方をしているものの、日本の社会全体に共通する大きな問題でもある。

行政からの応募もあった。その中に県内の2つの市から「高度成長期に作られた各種の公共施設が一斉に更新期を迎えていて財政支出が膨らむ反面で、企業の海外進出や人口減少で税収が伸び悩む問題の解決」という共通した問題が寄せられた。過去の趨勢をなぞった連立微分方程式では解が求まらない問題である。ヒアリングでは、この問題に先行して取り組んでいる焼津市の担当の方をお願いして、応募された市に同行してもらい「公共施設マネジメント」について、いろいろ調べられたことや勉強された話を、応募市の担当の方とともに聞かせて頂いた。

問題も解法も知らなかった私自身、とても勉強になった。人智を絞れば、パラメータの値を変えることができ、解が見つかる希望を持てたことが嬉しい。本学の教員や学生にも参加を呼びかけて知恵を借りたい課題である。「地域社会は、静岡大学のもうひとつの大きな教室・研究室であり、地域の諸課題に取り組む人々は、現実を知り経験に富んだ教師である」ことを改めて教えて頂いた今回のプロジェクトである。

地域連携応援プロジェクトと地域課題解決支援プロジェクト

地域連携・生涯学習の窓口として活動する当部門には、生涯学習教育研究センターと地域連携協働センターという2つの前身がある。

平成21年度に開設された地域連携協働センターでは、公開シンポ「地域と大学をつなぐ～メディアイーターとしての学生～」 「地域と大学を結ぶ～教育・研究・地域連携の融合を目指して～」を開催し、「アメニティ佐鳴湖プロジェクト」「現代GP 一社一村しずおか運動」等、大学の地域連携・貢献活動を紹介し、参加した学生や地域住民との意見交換・交流を行いながら、地域連携・地域貢献の可能性を探った。

23年度からは教職員・学生が一体となり行う地域連携活動を支援する「地域連携応援プロジェクト」を立ち上げ、初年度11件、平成24年度14件、25年度12件の計37件のプロジェクトを支援しており、地域から高い評価を受けている。

上記のプロジェクトはすでに地域との接点がある教職員・学生の活動を支援するものだが、これまで大学との接点がなかった地域や団体から課題を公募し、新たな地域連携・貢献活動につなげようという取り組みが今年度立ち上げた「地域課題解決支援プロジェクト」である。

巻頭言にあるように、県内全域から28件(自治体9件、社会教育施設等3件、企業2件、NPO・各種団体等14件)の応募があり、現在全件についてヒアリングを実施中である。教職員だけでなく時には学生も参加するヒアリングにより、積極的に各研究室・学生に課題解決支援への参加を呼びかけるとともに、学内外からアクセスし活用できるよう地域課題データベースを作り公開する。また、来年度以降はモデル事業を選定し、全学的に支援していく予定である。

このプロジェクトは、大学が「地域課題」を定義し解決策を提示するのではなく、地域から地域の現状と課題を学び、大学の教育・研究を拡充・深化させることを目指した活動である。



静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

静岡大学では、大学創立60周年を機に、読売新聞東京本社静岡支局、中日新聞東海本社、コープしずおかと連携した市民向け講座を開講し、2013年度で5年目を迎えました。

継続して開講してきたため、いずれも市民の間に浸透・定着し、受講者の数は増加しています。

来年度も開講を計画していますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「グローバル化時代を生きる」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	7/27(土)	多文化共生社会に求められる異文化理解能力	原沢伊都夫(静岡大学国際交流センター教授)	178
2	8/31(土)	次世代を産み育てる新しい社会に向かって～フランスとの比較～	船橋恵子(静岡大学人文社会科学部教授)	142
3	9/28(土)	マントル掘削～地球規模の物質循環を探る～	道林克禎(静岡大学大学院理学研究科教授)	134
4	10/19(土)	グローバル時代の「共同体」	金 明美(静岡大学大学院情報学研究科准教授)	125
5	11/30(土)	「新しい公共」と地域づくり	日詰一幸(静岡大学人文社会科学部教授)	136

■会 場：あざれあ（静岡県男女共同参画センター）6階大ホール

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「世界文化遺産富士山を考える」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	10/12(土)	富士山 大自然への道案内	小山真人(静岡大学教育学部・防災総合センター教授)	77
2	11/9(土)	文化遺産を育て守る富士山の自然	増澤武弘(静岡大学理学研究科特任教授・NPO法人静岡自然環境研究会理事長)	71
3	12/14(土)	富士山の形と活動史	和田秀樹(静岡大学理学研究科教授)	65
4	1/11(土)	眺める富士山～景観と表現～	小二田誠二(静岡大学人文社会科学部教授)	72
5	2/1(土)	霊峰富士の宗教文化史	湯之上隆(静岡大学人文社会科学部教授)	74

■会場：静岡大学浜松キャンパス

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

3 静岡大学・ユーコープ連携講座「災害を知り、防災を考える」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	9/7(土)	火山噴火予知の方法～富士山の現状を考える～	鶴川元雄(静岡大学防災総合センター客員教授)	37
2	9/14(土)	静岡の津波防災を考える	原田賢治(静岡大学防災総合センター准教授)	39
3	9/28(土)	大地が伝える津波と地震の記憶～静岡・伊豆の堆積物調査から～	北村晃寿(静岡大学理学研究科准教授)	36

■会場：沼津市民文化センター

■参加費：無料

■連携先：生活協同組合ユーコープ

■その他：上記講座に加え、静岡と浜松を会場として以下のとおり実施した。

〔静岡会場〕「静岡の津波防災を考える」(2/1) 於：静岡駅ビルパルシェ会議室

「大地が伝える津波と地震の記憶～静岡・清水平野の堆積物調査から～」(2/22) 於：静岡県教育会館すんぷらーざ

〔浜松会場〕「静岡の津波防災を考える」(2/8) 於：浜松市勤労会館Uホール

「大地が伝える津波と地震の記憶～静岡県の堆積物調査から～」(2/15) 於：浜松市勤労会館Uホール

静岡大学・読売新聞連携市民講座 2013 第5回

グローバル化時代を生きる

参加無料

2013.7.27(土) 14:00～16:00
多文化共生社会に求められる異文化理解能力
講師：藤沢 雅夫(静岡大学教育学部教授)

2013.9.28(土) 14:00～16:00
次世代を育てる新しい社会に向けて～フランスとの比較～
講師：松岡 孝子(静岡大学人文社会科学部教授)

2013.10.19(土) 14:00～16:00
グローバル時代の「共同性」
講師：金 明美(静岡大学教育学部教授)

2013.11.30(土) 14:00～16:00
「新しい公共」と地域づくり
講師：藤田 浩一(静岡大学教育学部教授)

会場：静岡市市民文化センター 6F大ホール
定員：各回50人 参加費：無料

静岡大学・読売新聞連携市民講座
「グローバル化時代を生きる」チラシ

静岡大学・中日新聞連携講座 第5回

世界文化遺産 富士山を考える

参加無料

2013.10.12(土) 14:00～16:00
富士山 大自然への道案内
講師：小山 真人(静岡大学教育学部・防災総合センター教授)

2013.11.9(土) 14:00～16:00
文化遺産を育て守る富士山の自然
講師：増澤武弘(静岡大学理学研究科特任教授)

2013.12.14(土) 14:00～16:00
富士山の形と活動史
講師：和田秀樹(静岡大学理学研究科教授)

2014.1.11(土) 14:00～16:00
眺める富士山～景観と表現～
講師：小二田誠二(静岡大学人文社会科学部教授)

2014.2.1(土) 14:00～16:00
霊峰富士の宗教文化史
講師：湯之上隆(静岡大学人文社会科学部教授)

会場：静岡大学浜松キャンパス
定員：各回70名 参加費：無料

静岡大学・中日新聞連携講座
「世界文化遺産富士山を考える」チラシ

2013年度 静岡大学・ユーコープ連携講座

災害を知り、防災を考える

静岡会場

2月8日(土) パルシェ会議室 14:00～16:00
静岡の津波防災を考える
講師：原田賢治(静岡大学防災総合センター准教授)

2月22日(土) 静岡視覚教育館すんぷらーざ 14:00～16:00
大地が伝える津波と地震の記憶～静岡・清水平野の堆積物調査から～
講師：北村晃寿(静岡大学理学研究科准教授)

浜松会場

2月8日(土) 浜松市勤労会館Uホール 14:00～16:00
静岡の津波防災を考える
講師：原田賢治(静岡大学防災総合センター准教授)

2月15日(土) 浜松市勤労会館Uホール 14:00～16:00
大地が伝える津波と地震の記憶～静岡県の堆積物調査から～
講師：北村晃寿(静岡大学理学研究科准教授)

定員：50人
対象：一般市民(どなたも)
申込期間：1月30日(木)
申込方法：公開講座のウェブサイト
お問い合わせ：静岡大学 生活協同組合ユーコープ

静岡大学・ユーコープ連携講座
「災害を知り、防災を考える」チラシ

2013年度静岡大学公開講座が終了しました

講座名	講師	日時	会場	対象	定員	実数	受講料	部局
安心登山のための読図とナビゲーションスキル（初級編）	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表選手・小泉成行	5/18(土)9:30～16:00	静岡キャンパス及び周辺の里山	登山・アウトドア活動を行う一般市民	25	24	3,000	教
次世代をめぐめるケアを考える～育児・教育・医療～ [全5回]	人文社会科学部教授・荻野達史 人文社会科学部講師・畠垣智恵 人文社会科学部准教授・吉田 崇 人文社会科学部准教授・橋本 剛 人文社会科学部教授・舩橋恵子	5/23・30、6/6・13・20(木)18:30～20:00	アイセル21（葵生涯学習センター）	興味のある方ならどなたでも	30	56	800	人
体験!大学の化学実験[全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/3(土)、8/4(日)10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生以上	30	59	無料	地
体験!大学の化学実験～ルミノールの合成と発光実験～	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/10(土)10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生以上	30	30	無料	地
小学校外国語活動スキルアップ講座VI	教育学部教授・矢野 淳	8/16(金)10:00～16:00	静岡キャンパス	静岡県内の小・中・高・特別支援学校教員	25	15	500	実
災害を知り、防災を考える [全3回]	防災総合センター客員教授・鶴川元雄 防災総合センター准教授・原田賢治 理学研究科准教授・北村晃寿	9/7・14・28(土)14:00～16:00	沼津市民文化センター	一般市民	50	79	無料	地
安心登山のための読図とナビゲーションスキル（中級編）	教育学部教授・村越 真 ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子	10/5(土)9:30～16:00	屋外	登山・アウトドア活動を行う一般市民	18	16	4,000	教
静大キャンパス探訪～静岡キャンパスの自然～ [全4回]	理学研究科教授・和田秀樹 理学研究科准教授・徳岡 徹 理学研究科学術研究員・加藤英明 教育学部教授・小南陽亮	10/5・12・19・12/14(土)10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、小中高生（中学生以下は保護者同伴）	20	27	無料	キ
いもに親しもう!～サツマイモの収穫・調製教室～	農学研究科助教・浅井辰夫 技術部専門職員・西川浩二 技術部専門職員・成瀬和子	11/2(土)9:00～12:00	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	小学生以上	20	19	500	農
情報学アラカルト講座2013	情報学研究科教授・シェフタル 情報学研究科准教授・高橋 晃 情報学研究科准教授・桐山伸也	11/9(土)10:30～12:00	浜松キャンパス	興味のある方ならどなたでも	各50	44	無料	情
遺伝子の世界を見てみよう [全2回]	グリーン科学技術研究所准教授・道羅英夫 技術部技術職員・鈴木智大	12/25(水)10:00～17:00、 12/26(木)10:00～15:00	静岡キャンパス	県内高校生	20	19	無料	グ
家庭果樹を楽しもう!!～果樹のせん定教室～	農学研究科助教・八幡昌紀 農学研究科客員教授・高木敏彦 技術部技術専門員・増田幸直 技術部技術専門職員・成瀬博規	2014年2/26(水)9:00～15:00	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	高校生以上	15	15	1,500	農

[主催欄凡例]

地 = イノベーション社会連携推進機構地域連携生涯学習部門
情 = 情報学部 実 = 教育学部附属教育実践総合センター

人 = 人文社会科学部 教 = 教育学部 農 = 農学部
キ = キャンパスミュージアム グ = グリーン科学技術研究所

2013年度下半期（10月～3月）の事業報告

主催事業

公開セミナー

「学んで楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学んで楽しい！」と題する公開セミナーを実施しました。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただきました。

・日時：2013年10月20日（日）9:15～12:10

・プログラム：

[講義①]「楽器のお話」講師：北山敦康（静岡大学教育学部音楽教育教室教授）、志民一成（静岡大学教育学部音楽教育教室准教授）

[講義②]「携帯電話の安心・安全」講師：水野等（(株)NTTドコモ東海支社総務部広報室）

・参加費：無料

・参加者数：127人

・会場：静岡大学学生会館3Fホール

・企画：静岡県知的障害者就労研究会



しずだい飛ぶ教室 in 美和

「源氏物語と楊貴妃」

「しずだい飛ぶ教室」は、地域への大学開放事業の一つとして、静岡大学関係の教職員が、静岡県内の遠隔市町へ出向き、出前講演等を行うものです。今回は、静岡市北部生涯学習センター美和分館主催の「日本文学リレー講座」第1回に協力して実施しました。

・日時：2013年10月9日（水）19:00～21:00

・講師：袴田光康（静岡大学人文社会科学部准教授）

・参加費：無料

・参加者数：30人

・会場：静岡市北部生涯学習センター美和分館（アカデミ）

・主催：静岡市北部生涯学習センター美和分館、静岡大学イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）



公開シンポジウム

「学習ネットワークと生涯学習⑩」

「学習ネットワークと生涯学習」をテーマに実施する公開シンポジウムも、今回で16回目を数えました。今回は、「地域と大学で何ができるか？」をテーマに、授業や研究・課外活動のほか、大学は地域社会とのかかわりの中で活動を行っているか、本学教職員・学生たちが取り組む実践事例を取り上げながら、地域連携の方向性と可能性を検討しました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、研究紀要『静岡大学生涯学習教育研究』で別途報告する予定です。

・日時：2013年12月6日（金）10:20～11:50

・会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育B棟501教室

・プログラム：

①「科学技術ものづくり教材の開発と授業実践」報告：松永泰弘研究室（静岡大学教育学部）

②「人文の知で地域とつながる～静岡県立中央図書館と静岡県立美術館との連携～」報告：平野雅彦研究室（静岡大学教育学部・人文社会科学部）

③「書道体験を核とした地域連携プログラム」報告：杉崎哲子研究室（静岡大学教育学部）

- ・コーディネーター：菅野文彦（静岡大学教育学部）
- ・参加費：無料
- ・参加者数：53人



- ③グループワークとディスカッション
- ・コメンテーター：白木賢信（常葉大学教育学部准教授）
- ・参加者数：59人
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡大学イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）、静岡県公民館連絡協議会



共催事業

生涯学習指導者研修事業 「地域連携・施設間連携を考える」

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施するものです。

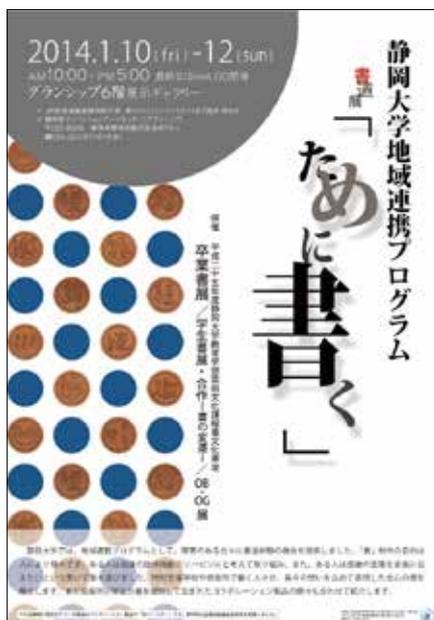
公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育・生涯学習の場として、また地域づくりの拠点として、これまで以上に地域の住民・機関・団体との連携・協働が求められています。地域のもつ人材、文化、ネットワークなどを活かしながら、地域全体の総合的な取り組みが必要な課題と向き合い、住民・諸機関・団体相互の連携・学び合いの中で、課題解決を図る様々な事例に学び、これからの公民館の姿を考えました。

- ・日時：2014年1月22日（水）10:20～16:00
- ・会場：静岡市興津生涯学習交流館
- ・プログラム：
 - ①基調講演「公民館 秘められた宝」講師：服部英二（国立中央青少年交流の家・所長）
 - ②実践事例報告
「地域とつながる、地域とつなげる」報告者：進藤敬（焼津市和田公民館長）

その他の地域連携事業

地域連携プログラム 「書道体験、ために書く」

障害を持っている方々にも「書」を楽しんでもらおうと、教育学部芸術文化過程書文化専攻の学生がマンツーマンでサポートしながら書道体験を実施しました。参加者の普段は心の中に閉じ込めてしまっている想いを毛筆で書いていただき、自分の作品と再会の喜びを味わっていただくため、後日書展も開催しました。



[書道体験 ために書く]

・日時：2013年10月27日(日)

[書展 ために書く]

・日時：2014年1月10日(金)～12日(日)

・会場：グランシップ

支援事業

「エスパルス若手教養講座」

静岡大学と(株)エスパルスとの連携協定に基づき、本学の教員が講師となり、清水エスパルスの若手選手が広く一般教養を涵養することを目的に、「エスパルス若手教養講座」を実施しました。

・日時：2013年7月29日(月)～11月14日(水)

・プログラム：

①7/29(月)「ガイダンス:知識と教養」講師:水谷洋一(静岡大学人文社会科学部准教授)

②8/26(月)「体感の化学」講師:関根理香(静岡大学理学研究科准教授)

③9/11(水)「情報モラル・メディアリテラシー」講師:塩田真吾(静岡大学教育学部准教授)

④9/25(水)「サッカーのための英会話」講師:田村敏広(静岡大学情報学部講師)

⑤11/14(水)「教養としての数学」講師:鈴木信行(静岡大学理学研究科教授)

・会場：エスパルスクラブハウス2階会議室

支援事業

「哲学カフェ@しぞ〜か」

この事業は、コーヒー等の飲み物を提供し、一般市民・学生を含む性別、年代、職業を異にする参加者が、立場を超えて、日常抱くさまざまな疑問について討議を行うもので、初年度の2013年度は以下のとおり開催しました。

・日時：2013年6月29日～2014年2月11日

・プログラム：

○6/29 創設記念講演「福島で哲学するということ一てつがくカフェ@ふくしまの取り組みから」講師:小野原雅夫(福島大学人間発達文化学類教授)

①8/24 「自然な死とはなにか」

②10/26 「日本はガラパゴス化しているのか」

③12/21 「子育ては誰の責任か」

④2/22 「よく生きるとはどういうことか」

・参加費：無料

・会場：静岡市産学交流センター (B-nest)

●● 第4回 ●●●●●●
哲学カフェ@しぞ〜か
テーマ:よく生きるとはどういうことか
日時:2014年2月22日(土)
14:00～17:00 (13:30～ 受付)
14:00～14:30 趣旨説明
14:30～16:30 討議(休憩 15:30～15:40)
16:30～17:00 ミニレクチャー
場所: B-nest 静岡市産学交流センター 大会議室
(静岡市葵区御幸町3-21 ベガサート内7F)
申込: お名前・連絡先を明記の上、
philocafe.shizuoka@gmail.comへ!
参加費: 無料

「哲学カフェ」・・・?
哲学カフェは、日常の「？」をみんなで自由に語り合う場です。
哲学、というと難しくそうですね。大丈夫。特別な知識はいりません。
「よく生きる」って、一体どんな生き方なのでしょう。
あなたなら「よく」にどんな中身を入れますか。
いえ、そもそも「よく生きる」必要はあるのでしょうか。
この哲学の伝統的な問いに、正面から向き合ってみませんか。

主催 哲学カフェ@しぞ〜か世話人 共催 静岡大学農学部・人文社会科学部
代表 竹之内裕文(静岡大学農学研究所) 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
室瀬俊彦(同人文社会科学部) TEL: 054-238-4817

企画協力事業

静岡市・大学連携事業 市民大学リレー講座

「事例から学ぶ観光の今-新しい交流のカタチ-」

この事業は、静岡市内5大学と静岡市が主催して全5回の講座として実施するもので、このうち第2回が静岡大学の担当回でした。

・日時：2013年10月5日(土)～11月2日(土)

14:00～16:00

・プログラム：

①10/5(土)「観光について考えよう」

講師:玉置 泰明(静岡県立大学教授)

②10/12(土)「味わい深い観光と交流づくり」

講師:上利 博規(静岡大学人文社会科学部教授)

③10/19(土)「地域ブランド構築と観光まちづくり」

講師:崔 瑛(静岡英和学院大学講師)

④10/26(土)「観光資源の固有価値と手段的価値」

講師:平木 隆之(東海大学教授)

⑤12/21(土)「観光をデザインする視点」

講師:安武 伸朗(常葉大学准教授)

・参加費：無料

・会場：アイセル21

・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉大学、静岡市

吉田町大学特別公開講座

「世界遺産・富士山の魅力の源泉」

・日時:2013年11月6日～12月11日までの毎週水曜日[全6回] 19:00～20:45

・プログラム：

- ① 11/6 「富士山の履歴書」講師：和田秀樹（静岡大学理学研究科教授）
- ② 11/13 「富士山の誇るべき自然のたまもの」講師：和田秀樹（静岡大学理学研究科教授）
- ③ 11/20 「文化遺産を育て守る富士山の自然」講師：増澤武弘（静岡大学理学研究科特任教授）
- ④ 11/27 「眺める富士山～景観と表現①」講師：小二田誠二（静岡大学人文社会科学部教授）
- ⑤ 12/4 「近代化と富士山への関わりの変化～信仰か観光か～」講師：上利博規（静岡大学人文社会科学部教授）
- ⑥ 12/11 「眺める富士山～景観と表現②」講師：小二田誠二（静岡大学人文社会科学部教授）

- ・参加費：3,000円
- ・会場：吉田町中央公民館
- ・対象：高校生以上の方

焼津市大村公民館特別講座

「地域リーダーたちの幕末維新一焼津地域から」

- ・日時：2014年1月30日（木）14:00～15:30
- ・講師：今村直樹（静岡大学人文社会科学部准教授）
- ・参加費：無料
- ・会場：焼津市大村公民館

市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目を、一般市民の方に開放するものです。単位の認定はありませんが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できます。正規学生と一緒に受講していただきますので、若い世代の学生と交流を持ちながら学ぶことができます。

2013年度の前・後学期別の開講科目数・受講者数の状況は下表のとおりです。

開講科目数			受講者数		
前学期	後学期	合計	前学期	後学期	合計
238	226	464	177	156	333



企画実施委員会

当部門には、「企画実施委員会」が組織されています。当部門の運営や組織、さらに本学の地域連携・生涯学習のあり方等について審議するとともに、全学公開講座の企画・立案・実施に関しても審議します。

委員名簿（2013年度）

- 阿部 耕也 部門長・教授
- 石川 宏之 部門専任教員・准教授
- 清水 一男 部門専任教員・准教授
- 満井 義政 機構特任教授
- 土居 英二 機構特任教授
- 水谷 洋一 人文社会科学部准教授
- 渋江かさね 教育学部准教授
- 山田 文康 情報学研究科教授
- 三重野 哲 理学研究科教授

- 戸田三津夫 工学研究科准教授
- 富田 涼都 農学研究科助教
- Steven Urick 大学教育センター講師
- 佐藤 忠弘 学術情報部研究協力課長
- 大谷 悦子 部門パート事務職員
- 牧野 宏美 部門パート事務職員

地域と大学 第28号

発行日——2014年3月20日
 発行——静岡大学イノベーション社会連携推進機構
 （地域連携生涯学習部門）
 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
 （理学部B棟1階）
 TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295
 E-mail : LLC@ipc.shizuoka.ac.jp
 （事務局）学術情報部研究協力課 ☎ 054-238-4317